

粗飼料確保緊急対策事業実施要綱

	平成28年10月	7日付け28農畜機第3527号
一部改正	平成28年10月21日	付け28農畜機第3687号
一部改正	平成29年	3月29日付け28農畜機第6555号
一部改正	平成29年	8月9日付け29農畜機第2686号
一部改正	平成29年10月12日	付け29農畜機第3747号
一部改正	平成30年	3月23日付け29農畜機第6665号
一部改正	平成30年	7月16日付け30農畜機第2379号
一部改正	平成30年	8月3日付け30農畜機第2745号
一部改正	平成30年	9月28日付け30農畜機第3689号
一部改正	平成30年10月	9日付け30農畜機第3826号
一部改正	平成30年10月31日	付け30農畜機第4300号

平成29年の梅雨期（6月7日から7月27日）における豪雨及び暴風雨（以下「平成29年梅雨期豪雨」という。）、平成29年台風第18号、平成30年5月20日から7月10日までの間の豪雨及び暴風雨（梅雨前線豪雨、台風第5号、台風第6号、台風第7号及び台風第8号並びに当該豪雨及び暴風雨に伴う長期間の降雨。以下「平成30年梅雨前線豪雨等」という。）、並びに平成30年北海道胆振東部地震、平成30年台風第21号及び平成30年台風第24号（以下、平成29年梅雨期豪雨、平成29年台風第18号、平成30年梅雨前線豪雨等、平成30年北海道胆振東部地震、平成30年台風第21号及び平成30年台風第24号を総称して「台風等の災害」という。）の影響により、牧草やデントコーン等（以下「自給飼料」という。）の生育不良又は収穫作業の遅れにより生産量や栄養価が低下する被害（以下、「生育不良等の被害」という。）、自給飼料が倒伏する被害及び収穫後に保管していた自給飼料が水濡れや流失する被害（以下「倒伏等の被害」という。）並びに播種済みの秋まき牧草の種子や表土が流出する等の被害（以下「表土流出等の被害」という。）が発生した。これにより、対象災害の発生日から平成31年3月までに作付け又は収穫予定の自給飼料の品質や収量が十分確保できず、被災地域における生乳生産や肉用牛の生育に悪影響を及ぼすことが懸念される。

また、平成30年4月19日に発生した硫黄山の噴火（以下「平成30年硫黄山噴火」という。）の影響により、宮崎県えびの市、鹿児島県伊佐市及び湧水町の一部地域（以下「水稲自粛区域」という。）では水稲の作付けの自粛が行われた。（以下「作付自粛の被害」という。）

これにより、水稲自粛区域での代替作物として飼料作物の作付けを行ったものの、自給飼料が十分確保されず、被災地域における生乳生産や肉用牛の生育に悪影響を及ぼすことが懸念される。

このため、独立行政法人農畜産業振興機構（以下「機構」という。）は、被災した畜産

経営体の営農継続のため、自給飼料を確保する取組を支援する事業に対し、独立行政法人農畜産業振興機構法（平成14年法律第126号）第10条第2号の規定に基づき補助することとし、もって酪農・肉用牛の生産基盤の維持に資するものとする。

この事業の補助金の交付に関しては、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律（昭和30年法律第179号。以下「補助金適正化法」という。）、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令（昭和30年政令第255号）、「畜産業振興事業の実施について」（平成15年10月1日付け15農畜機第48号-1）及び「畜産業振興事業に係る補助金交付の停止措置について」（平成26年3月31日付け25農畜機第5376号）に定めるもののほか、この要綱に定めるところによる。

第1 事業実施主体

この事業の事業実施主体は、農業協同組合、農業協同組合連合会、中小企業等協同組合法（昭和24年法律第181号）に基づく事業協同組合、畜産業の振興に資する事業を行う一般社団法人又は一般財団法人その他独立行政法人農畜産業振興機構理事長（以下「理事長」という。）が適当と認める法人とする。

第2 事業の内容

事業実施主体は、地域における粗飼料を確保するため、次の事業を自ら実施し、又は第3の2の（1）に規定する生産者集団、農業協同組合、農業協同組合連合会、中小企業等協同組合法に基づく事業協同組合、一般社団法人又は一般財団法人（以下「生産者集団等」という。）が、1及び2の取組を実施するのに要する経費について補助するものとする。

1 サイレージ品質低下防止等対策

（1）品質低下防止資材の共同購入

台風等の災害により倒伏等の被害又は平成30年梅雨前線豪雨等及び平成30年台風第24号により生育不良等の被害を受けた自給飼料について、サイレージの品質低下を抑制するための乳酸菌等の発酵促進資材及び二次発酵による品質低下を防止する二次発酵防止資材（以下「品質低下防止資材」という。）を共同購入し、台風等の災害により自給飼料に被害を受けた畜産経営体に対し供給する取組

（2）給与前のサイレージ等品質の確認

ア 倒伏等の被害を受けたサイレージの品質の確認

台風等の災害により倒伏等の被害を受け、（1）に取り組んだ生産者集団等が、品質防止資材を添加したサイレージについて、家畜への給与前に飼料分析をして品質の確認を行う取組

イ 生育不良等の被害を受けた乾牧草等の品質の確認

平成30年梅雨前線豪雨等又は平成30年台風第24号により生育不良等の被害を受けた自給飼料を調製した乾牧草及びサイレージについて、家畜への給与前に飼料分析をして品質の確認を行う取組

2 代替粗飼料の確保対策

第3の2の(3)のアに規定する国産の粗飼料や輸入乾牧草等を共同購入し、対象災害の被害により自給飼料が不足する畜産経営体に対し供給する取組

3 粗飼料緊急確保の推進

1及び2の事業を円滑に推進するための会議の開催、現地調査、生産者集団等に対する指導等

第3 事業の実施

1 実施要領の作成等

事業実施主体は、第2の1及び2の事業の実施に当たり、生産者集団等に経費を補助する場合は、あらかじめ事業の趣旨、内容、仕組み、補助金の交付手続、消費税及び地方消費税の取扱い等を定めた事業実施要領を作成し、理事長の承認を受けるものとする。これを変更する場合も同様とする。

2 事業の要件

(1) 生産者集団

生産者集団は、3者以上の畜産経営体から構成され、次に掲げる事項の全てを内容とする規約を有するものとする。

ア 生産者集団の目的、名称、事務所の所在地、代表者及び構成員に関する事項

イ 生産者集団の運営に関する事項

ウ 畜産振興に関する事項

エ その他生産者集団の目的の達成に必要な事項

(2) サイレージ品質低下防止等対策

ア 品質低下防止資材の共同購入

第2の1の(1)の取組の補助対象要件は、次のとおりとする。

(ア) 補助対象となる発酵促進資材等は、事業実施主体又は生産者集団等の構成員が作付けし、台風等の災害により倒伏等の被害を受け、品質低下のおそれがある自給飼料に係るサイレージの品質低下の抑制に資するものであること。

(イ) 補助対象となる購入期間は次のとおりとする。

a 平成29年梅雨期豪雨又は平成29年台風第18号の被害対策

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

b 平成30年梅雨前線豪雨等、平成30年北海道胆振東部地震、平成30年台風第21号又は平成30年台風第24号の被害対策

平成30年梅雨前線豪雨等、平成30年北海道胆振東部地震、平成30年台風第21号又は平成30年台風第24号の被害を受けた日から平成31年3月31日まで

(ウ) 補助対象数量は、台風等の災害により倒伏等の被害を受けた草地等において次の期間に収穫した面積に係る自給飼料の処理に必要な数量を上限とする。

a 平成29年梅雨期豪雨の被害対策

平成29年梅雨期豪雨の被害を受けた日から平成30年3月31日まで

b 平成29年台風第18号の被害対策

平成29年台風第18号の被害を受けた日から平成30年3月31日まで

c 平成30年梅雨前線豪雨等、平成30年北海道胆振東部地震、平成30年台風第21号又は平成30年台風第24号の被害対策

平成30年梅雨前線豪雨等、平成30年北海道胆振東部地震、平成30年台風第21号又は平成30年台風第24号の被害を受けた日から平成31年3月31日まで

イ 給与前のサイレージ等品質の確認

第2の1の(2)の取組の補助対象要件は、次のとおりとする。

- (ア) 補助対象となる飼料分析は、第2の1の(2)のアについては、自給飼料のうち、第2の1の(1)の取組により品質低下防止資材を添加したものを、生産者集団の構成員が色、匂い等により分析を必要と判断した上で、当該分析の結果に基づき、事業実施主体又は生産者集団等が家畜への給与の是非を確認することに資するものであること。

第2の1の(2)のイについては、平成30年梅雨前線豪雨等及び平成30年台風第24号により生育不良等の被害を受けた自給飼料を調製した乾牧草及びサイレージのうち、生産者集団の構成員が分析を必要と判断した上で、当該分析の結果に基づき、事業実施主体又は生産者集団等が、家畜への給与の是非又は給与の制限割合を確認することに資するものであること。

- (イ) 補助対象となる飼料分析は、次の期間内に分析を依頼し、結果を得たものとする。

a 平成29年梅雨期豪雨又は平成29年台風第18号の被害対策

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

b 平成30年梅雨前線豪雨等、平成30年北海道胆振東部地震、平成30年台風第21号又は平成30年台風第24号の被害対策

平成30年梅雨前線豪雨等、平成30年北海道胆振東部地震、平成30年台風第21号又は平成30年台風第24号の被害を受けた日から平成31年3月31日まで

- (ウ) 補助対象件数は、生産者集団の構成員1者につき、アの(ウ)の面積に応じ、以下の点数を上限とする。

a 20ヘクタール未満 1件

b 20ヘクタール以上40ヘクタール未満 2件

c 40ヘクタール以上60ヘクタール未満 3件

d 以下同様に20ヘクタールごとに1件追加

なお、飼料分析を行った際は、第6の4の実績報告時に、別紙様式第1号の別添1にその分析結果に対する評価を行うものとする。

(3) 代替粗飼料の確保対策

第2の2の補助対象要件は、事業実施主体又は生産者集団等の構成員が作付け、収穫若しくは購入した自給飼料、又は栽培契約により購入した若しくは購入予定であった国産粗飼料（以下「契約国産粗飼料」という。）のうち、台風等の災害及び平成30年硫黄山噴火による倒伏等の被害、表土流出等の被害、生育不良等の被害及び作付自粛の被害により不足する自給飼料又は契約国産粗飼料を代替粗飼料により確保する場合であって、補助対象要件は次のとおりとする。

ア 補助対象となる代替粗飼料は、国産の乾牧草及び牧草サイレージ、国産のデントコーンサイレージ、原料の重量又は可消化養分総量（以下「TDN」という。）の過半が粗飼料原料である混合飼料（以下「TMR」という。）、輸入乾牧草、ビートパルプその他理事長が適当と認めたものとする。

イ 補助対象となる購入期間は次のとおりとする。

（ア）平成29年梅雨期豪雨又は平成29年台風第18号の被害対策

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

（イ）平成30年梅雨前線豪雨等、平成30年北海道胆振東部地震、平成30年台風第21号又は平成30年台風第24号の被害対策

平成30年梅雨前線豪雨等、平成30年北海道胆振東部地震、平成30年台風第21号又は平成30年台風第24号の被害を受けた日から平成31年3月31日まで

（ウ）平成30年硫黄山噴火の被害対策

平成30年5月23日から平成31年3月31日まで

ウ 補助対象数量は、以下により算出する。

（ア）平成29年梅雨期豪雨又は平成29年台風第18号の被害対策

A 代替粗飼料の購入数量（kg）×TDN含有率（%）＝代替粗飼料のTDN含有量（kg）

B 不足自給飼料のTDN含有量（kg）＝平成29年産（対象被害の発生日から平成29年12月までに作付け又は収穫予定であったもの）不足自給飼料のTDN含有量（kg）－平成29年度補助対象数量のTDN含有量（kg）＋平成30年度不足自給飼料のTDN含有量（kg）

※ 平成29年産不足自給飼料のTDN含有量（kg）＝平成29年度粗飼料確保緊急対策事業実績報告書（以下「平成29年度実績報告書」という。）にて報告した不足数量のTDN含有量（kg）

※ 平成30年度不足自給飼料のTDN含有量（kg）＝表土流出等の被害により収穫不能又は減収した平成30年産（平成30年1月から12月までに作付け又は収穫予定であるもの）自給飼料の数量のTDN含有量（kg）＋倒伏等の被害を受けた平成29年産のサイレージのうち平成30年度中に給与不能となった数量のTDN含有量（kg）

A ≤ B の場合は、A の代替粗飼料の購入数量

A > B の場合は、A の代替粗飼料の購入数量のうち平成30年度内不足自給飼

料のTDN含有量相当数量を上限とする

(イ) 平成30年梅雨前線豪雨等、平成30年北海道胆振東部地震、平成30年台風第21号又は平成30年台風第24号の被害対策

自給飼料及び契約国産粗飼料について以下により算出される収穫不能数量及び給与不能数量の合計並びに平成30年梅雨前線豪雨等及び平成30年台風第24号の影響で生育不良等の被害による生産量や栄養価の低下に伴う給与制限数量及び生産不足数量とする。

a 収穫不能数量及び給与不能数量

(自給飼料)

A 代替粗飼料の購入数量 (kg) × TDN含有率 (%)

=代替粗飼料のTDN含有量 (kg)

B 不足自給飼料の数量 (kg) × TDN含有率 (%)

=不足自給飼料のTDN含有量 (kg)

※ 不足自給飼料の数量=収穫不能数量(倒伏等の被害のうち収穫前の被害又は表土流出等の被害により収穫不能となったもの)+給与不能数量(倒伏等の被害のうち収穫後に被害による品質劣化等が判明し給与不能となったもの)-契約国産粗飼料として販売不能となった数量(栽培契約数量-実際の販売数量)

A ≤ Bの場合は、Aの代替粗飼料の購入数量

A > Bの場合は、Aの代替粗飼料の購入数量のうち不足自給飼料のTDN含有量相当数量を上限とする。

(契約国産粗飼料)

C 代替粗飼料の購入数量 (kg) × TDN含有率 (%)

=代替粗飼料のTDN含有量 (kg)

D 不足契約国産粗飼料の数量 (kg) × TDN含有率 (%)

=不足契約国産粗飼料のTDN含有量 (kg)

※ 不足契約国産粗飼料数量=契約国産粗飼料の栽培契約数量-実際に購入した国産粗飼料の数量(以下「入荷数量」という。)+給与不能数量(契約国産粗飼料の入荷後に被害による品質劣化等が判明し給与不能となったもの)

C ≤ Dの場合は、Cの代替粗飼料の購入数量

C > Dの場合は、Cの代替粗飼料の購入数量のうち不足契約国産粗飼料のTDN含有量相当数量を上限とする。

b 給与制限数量及び生産不足数量

牧草由来の乾牧草又はサイレージについては、(a)及び(b)の合計(ただし(b)がゼロを下回る場合は(a)のみ)、デントコーンサイレージについては(b)にて算出したTDN含有量相当数量を上限とする。

(a) 給与制限数量

E 代替粗飼料の購入数量 (kg) × TDN含有率 (%)

=代替粗飼料のTDN含有量 (kg)

F 給与制限した自給飼料牧草一番草の数量 (kg) × TDN含有率 (%) × 給与制限割合

=給与制限した自給飼料 (もしくは契約国産粗飼料) 牧草一番草のTDN含有量 (kg)

※ 給与制限した自給飼料の数量=生産数量 (又は入荷数量) (kg) - 販売した数量 (kg)

※ 給与制限割合 = $x \div y$

x: 自給飼料 (もしくは契約国産粗飼料) の標準的な収穫時の繊維質含有率 (%) - 自給飼料 (もしくは契約国産粗飼料) の収穫作業の遅れ時の繊維質含有率 (%)

y: 代替粗飼料の繊維質含有率 (%) - 自給飼料 (もしくは契約国産粗飼料) の収穫作業の遅れ時の繊維質含有率 (%)

$E \leq F$ の場合は、Eの代替粗飼料購入数量

$E > F$ の場合は、Eの代替粗飼料の購入数量のうち給与制限自給飼料 (もしくは契約栽培飼料) のTDN含有量相当数量を上限とする。

(b) 生産不足数量

G 代替粗飼料の購入数量 (kg) × TDN含有率 (%)

=代替粗飼料のTDN含有量 (kg)

H 生産不足自給飼料 (もしくは契約国産粗飼料) の数量 (kg) × TDN含有率 (%)

=生産不足自給飼料 (もしくは契約国産粗飼料) のTDN含有量 (kg)

※ 生産不足自給飼料 (もしくは契約国産粗飼料) の数量

=自給飼料 (もしくは契約国産粗飼料) の平年の収穫数量 (kg) - 自給飼料 (もしくは契約国産粗飼料) の本年の収穫数量 (kg) - (a) の補助対象数量 (kg)

$G \leq H$ の場合は、Gの代替粗飼料購入数量

$G > H$ の場合は、Gの代替粗飼料の購入数量のうち生産不足自給飼料 (もしくは契約栽培飼料) のTDN含有量相当数量を上限とする。

(ウ) 平成30年硫黄山噴火の被害対策

I 代替粗飼料の購入数量 (kg) × TDN含有率 (%)

=代替粗飼料のTDN含有量 (kg)

J = (水稲自粛地域における平成29年産自給飼料 (もしくは契約国産粗飼料) 等の生産・確保数量 (kg) × TDN含有率 (%)) - (水稲自粛地域における平成30年産自給飼料 (もしくは契約国産粗飼料) の生産・確保数量 (kg) × TDN含有率 (%))

=不足自給飼料 (もしくは不足契約国産粗飼料) のTDN含有量 (kg)

$I \leq J$ の場合は、Iの代替粗飼料購入数量

$I > J$ の場合は、Iの購入数量のうち、不足自給飼料 (もしくは契約国

産粗飼料のTDN含有量相当量を上限とする。

- ※ 水稲自粛区域外の水田において、平成29年に確保していた契約国産粗飼料が、平成30年において水稲の作付け自粛を踏まえ食用米に変更されたことにより、粗飼料が不足する場合には、水稲自粛区域における平成29年産自給飼料（もしくは契約国産粗飼料）等の生産・確保数量に、食用米に変更された水田において平成29年に確保していた契約国産粗飼料の数量を含めることができる。
 - ※ 水稲自粛区域外の水田において、平成29年に確保していた契約国産粗飼料が、平成30年において水稲の作付け自粛を踏まえ食用米に変更され、副産物である稲わらを確保した場合には、水稲自粛区域における平成30年産自給飼料（もしくは契約国産粗飼料）の生産・確保数量に含めることとする。
 - ※ 水稲自粛区域における平成29年自給飼料（もしくは契約国産粗飼料）等の生産・確保数量には、平成30年に追加的生産または契約による確保が予定されていたことが書面により確認できる数量を含めることができる。
- エ 事業実施主体又は生産者集団等が自らTMRを製造し、販売する場合にあっては、対象災害による倒伏等の被害又は表土流出等の被害を受けた構成員以外の者に販売したTMRに含まれる代替粗飼料の購入数量を全購入数量から差し引くものとする。

(4) 飼料作物の被害状況等の確認

事業実施主体又は生産者集団等は、対象災害の被害を受けた構成員の飼料作物の被害状況について確認するとともに、被害の種類（倒伏等の被害、表土流出等の被害、生育不良等の被害及び作付自粛の被害）に応じて、台風等の災害の発生年度の被害については別紙様式第1号の別添2飼料作物被害状況確認調書を、台風等の災害の発生翌年度の被害については別添3飼料作物被害状況確認調書を作成し、構成員の属する市町村等から被害状況の確認を得るものとする。また、硫黄山噴火の被害においては、別添4平成29年産飼料作物生産数量等確認調書及び別添5平成30年産飼料作物作付数量等確認調書を作成し、構成員の属する市町村等から被害状況の確認を得るものとする。

ただし、表土流出等の被害を受けた草地等の状況を写真により明らかにするとともに、収穫前に収穫量の調査を行うことにより被害後の単収を算定するものとする。

なお、事業実施主体又は生産者集団等が前年度において飼料作物被害状況確認調書を作成し、構成員の属する市町村等から被害状況の確認を得た場合であって、被害状況に変更がない時は、前年産に係る確認を省略できるものとする。

3 事業の委託

事業実施主体は、この事業の一部を理事長が適当と認める者に委託して行うことができるものとする。

4 事業の実施期間

この事業の実施期間は、平成28年度から平成30年度とする。

第4 事業の推進指導

- 1 事業実施主体は、農林水産省及び機構の指導の下、都道府県及び関係団体等との連携に努めるとともに、事業の適正、かつ、円滑な実施を図るものとする。
- 2 生産者集団等は、事業実施主体及び都道府県の指導の下、関係団体等との連携に努めるとともに、事業の適正かつ円滑な実施を図るものとする。
- 3 都道府県知事は、第2の事業の適正、かつ、円滑な実施を図るため、この事業の趣旨、内容等の周知、事業実施主体及び生産者集団等に対する指導その他必要な支援に努めるものとする。
- 4 事業実施主体は、この事業の実施に当たっては、「環境と調和のとれた農業生産活動規範について」（平成17年3月31日付け16生産第8377号農林水産省生産局長通知）に基づき、環境と調和のとれた農業生産活動が行われるよう努めるものとし、また、生産者集団等及びその構成員に対して指導するものとする。ただし、事業を実施する生産者集団等及びその構成員が、GAP取得チャレンジシステムと同等以上の水準の取組を実施する場合は、当該環境と調和のとれた農業生産活動が行われているとみなすものとする。

第5 機構の補助

機構は、予算の範囲内において、別表に定める補助対象経費及び補助率により、事業実施主体が第2に規定する事業を実施するのに要する経費につき補助するものとする。

第6 補助金交付の手続等

1 補助金の交付申請

事業実施主体は、補助金の交付を受けようとする場合は、生産者集団等から提出された事業実施計画を取りまとめの上、自ら作成する事業実施計画と合わせて、理事長が別に定める期日までに、別紙様式第1号の粗飼料確保緊急対策事業補助金交付申請書を理事長に提出するものとする。

また、事業実施主体は、交付申請に当たり、事業実施計画を自ら又は生産者集団等が属する都道府県知事に提出するものとする。

2 事業の変更承認申請

事業実施主体は、補助金の交付決定のあった後において、次に掲げる変更をしようとする場合は、あらかじめ別紙様式第2号の粗飼料確保緊急対策事業補助金交付変更承認申請書を理事長に提出し、その承認を受けるものとする。この場合、事業実施主体は、変更後の事業実施計画を自ら又は生産者集団等が属する都道府県知事に提出するものとする。

(1) 事業の中止又は廃止

(2) 事業費の30パーセントを超える増減

(3) 補助金の交付決定額の増加を伴う事業費の増

3 補助金の概算払

(1) 理事長は、この事業の円滑な実施を図るために必要があると認めた場合は、交付決定額を限度として概算払をすることができるものとする。

(2) 事業実施主体は、補助金の概算払請求をしようとする場合は、別紙様式第3号の粗飼料確保緊急対策事業補助金概算払請求書を理事長に提出するものとする。

4 事業の実績報告

生産者集団等は、遅滞なく事業実施主体に対し、当該年度に実施した事業の実績を報告するものとする。

事業実施主体は、生産者集団等から提出された事業の実績及び自らの事業の実績を取りまとめ、自ら又は生産者集団等が属する都道府県知事に報告するとともに、事業を完了した日から起算して1か月を経過した日又は補助金の交付決定通知のあった年度の翌年度の4月20日のいずれか早い期日までに別紙様式第4号の粗飼料確保緊急対策事業実績報告書を理事長に提出するものとする。

ただし、事業の完了が交付決定通知のあった年度の翌年度となった場合は、事業の完了した日から起算して1か月を経過した日までとする。

第7 消費税及び地方消費税の取扱い

1 事業実施主体は、機構に対して第6の1の粗飼料確保緊急対策事業補助金交付申請書を提出するに当たり、当該補助金に係る仕入れに係る消費税等相当額（補助対象経費に含まれる消費税及び地方消費税に相当する額のうち、消費税法（昭和63年法律第108号）に規定する仕入れに係る消費税額として控除できる部分の金額と当該金額に地方税法（昭和25年法律第226号）に規定する地方消費税率を乗じて得た金額との合計額に補助率を乗じて得た金額をいう。以下同じ。）があり、かつ、その金額が明らかな場合には、これを当該補助金の交付申請額から減額して申請しなければならない。

ただし、当該補助金交付申請書の提出時において当該補助金に係る仕入れに係る消費税等相当額が明らかでない場合は、この限りでない。

2 事業実施主体は、1のただし書により申請をした場合において、第6の4に係る粗飼料確保緊急対策事業実績報告書を提出するに当たって、当該補助金に係る仕入れに係る消費税等相当額が明らかになった場合は、これを補助金額から減額して報告しなければならない。

3 事業実施主体は、1のただし書により申請をした場合において、第6の4に係る粗飼料確保緊急対策事業実績報告書を提出した後において、消費税及び地方消費税の申告により当該補助金に係る仕入れに係る消費税等相当額が確定した場合には、別紙様式第5号の粗飼料確保緊急対策事業に係る仕入れに係る消費税等相当額報告書を速やかに理事長に提出するとともに、その金額（2の規定に基づき減額した場合は、その減じた金額を上回る部分の金額）を機構に返還しなければならない。

また、当該補助金に係る仕入れに係る消費税等相当額が明らかにならない場合又

は消費税等相当額がない場合(事業実施主体自ら若しくはそれぞれの生産者集団等の仕入れに係る消費税等相当額がない場合も含む。)であっても、その状況等について、補助金適正化法第15条の補助金の額の確定通知のあった日の翌年6月30日までに、同様式により理事長に報告しなければならない。

第8 帳簿等の整備保管等

1 帳簿の整備保管

事業実施主体は、この事業に係る経理を適正に行うとともに、その内容を明らかにした帳簿及び関係書類を整備して保管するものとする。

ただし、その保存期間は、事業の完了した年度の翌年度から起算して5年間とする。

2 事業実施状況の聴取等

理事長は、この要綱に定めるもののほか、この事業の実施及び実績について必要に応じ、事業実施主体及び生産者集団等に対し調査し又は報告を求めることができるものとする。

第9 その他

この要綱に定めるもののほか、この事業の実施につき必要な事項については理事長が別に定めることができるものとする。

附 則 (平成28年10月7日付け28農畜機第3527号)

- 1 この要綱は、平成28年10月7日から施行し、平成28年8月16日から適用する。
- 2 平成28年8月16日から補助金交付決定までの間に着手した場合にあっては、「畜産業振興事業の実施について」(平成15年10月1日付け15農畜機第48号)14の規定に基づく着手の手続きについては、同規定にかかわらず、別紙様式第1号粗飼料確保緊急対策事業補助金交付申請書の備考欄の該当箇所に着手年月日を記入することにより、行うものとする。この場合、事業実施主体又は生産者集団等は、補助金交付決定までのあらゆる損失等について、自らの責任とすることを了知の上で行うものとする。

附 則 (平成28年10月21日付け28農畜機第3687号)

- 1 この要綱の改正は、平成28年10月21日から施行し、平成28年9月17日から適用するものとする。
- 2 この要綱の改正以前に実施した第2の事業については、この要綱による改正前の規定はなお効力を有するものとする。
- 3 この要綱の改正後の第2の事業のうち平成28年台風第16号による被害に係る事業について、平成28年9月17日から補助金交付決定までの間に着手した場合にあっては、「畜産業振興事業の実施について」(平成15年10月1日付け

15農畜機第48号)14の規定に基づく着手の手続きについては、同規定にかかわらず、別紙様式第1号粗飼料確保緊急対策事業補助金交付申請書の備考欄の該当箇所に着手年月日を記入することにより、行うものとする。この場合、事業実施主体又は生産者集団等は、補助金交付決定までのあらゆる損失等について、自らの責任とすることを了知の上で行うものとする。

附 則（平成29年3月29日付け28農畜機第6555号）

- 1 この要綱の改正は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 この要綱の改正以前に実施した第2の事業については、この要綱による改正前の規定はなお効力を有するものとする。

附 則（平成29年8月9日付け29農畜機第2686号）

- 1 この要綱の改正は、平成29年8月9日から施行し、平成29年6月7日から適用するものとする。
- 2 この要綱の改正以前に実施した第2の事業については、この要綱による改正前の規定はなお効力を有するものとする。
- 3 この要綱の改正後の第2の事業のうち平成29年梅雨期豪雨による被害に係る事業について、平成29年6月7日から補助金交付決定までの間に着手した場合にあっては、「畜産業振興事業の実施について」（平成15年10月1日付け15農畜機第48号-1）14の規定に基づく着手の手続については、同規定にかかわらず、別紙様式第1号粗飼料確保緊急対策事業補助金交付申請書の備考欄の該当箇所に着手年月日を記入することにより、行うものとする。この場合、事業実施主体又は生産者集団等は、補助金交付決定までのあらゆる損失等について、自らの責任とすることを了知の上で行うものとする。

附 則（平成29年10月12日付け29農畜機第3747号）

- 1 この要綱の改正は、平成29年10月12日から施行し、平成29年9月15日から適用するものとする。
- 2 この要綱の改正以前に実施した第2の事業については、この要綱による改正前の規定はなお効力を有するものとする。
- 3 この要綱の改正後の第2の事業のうち平成29年台風第18号による被害に係る事業について、平成29年9月15日から補助金交付決定までの間に着手した場合にあっては、「畜産業振興事業の実施について」（平成15年10月1日付け15農畜機第48号-1）14の規定に基づく着手の手続については、同規定にかかわらず、別紙様式第1号粗飼料確保緊急対策事業補助金交付申請書の備考欄の該当箇所に着手年月日を記入することにより、行うものとする。この場合、事業実施主体又は生産者集団等は、補助金交付決定までのあらゆる損失等について、自らの責任とすることを了知の上で行うものとする。

附 則（平成30年3月23日付け29農畜機第6665号）

- 1 この要綱の改正は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 この要綱の改正以前に実施した第2の事業については、この要綱による改正前の規定はなお効力を有するものとする。

附 則（平成30年7月16日付け30農畜機第2379号）

この要綱の改正は、平成30年7月16日から施行し、平成30年の梅雨期における豪雨の被害を証明する書面の交付を市町村から受けた者等を対象に適用するものとする。

附 則（平成30年8月3日付け30農畜機第2745号）

- 1 この要綱の改正は、平成30年8月3日から施行し、平成30年5月20日から適用するものとする。
- 2 平成30年7月16日付け30農畜機第2379号によるこの要綱の改正の附則の「平成30年梅雨期豪雨」とあるのは、「平成30年梅雨前線豪雨等」と読み替えるものとする。
- 3 平成30年7月16日付け30農畜機第2379号によるこの要綱の改正の適用期日は1と同様とする。
- 4 この要綱の改正後の第2の事業のうち、平成30年梅雨前線豪雨等による被害に係る事業について、平成30年5月20日から補助金交付決定までの間に着工又は着手した場合にあっては、「畜産業振興事業の実施について」（平成15年10月1日付け15農畜機第48号-1）14の規定に基づく着工又は着手の手続については、同規程にかかわらず、別紙様式第1号の粗飼料確保緊急対策事業補助金交付申請書の備考欄の該当箇所に着工年月日又は着手年月日を記入することにより、行うものとする。この場合、事業実施主体又は生産者集団等は、補助金交付決定までのあらゆる損失等について、自らの責任とすることを了知の上で行うものとする。

附 則（平成30年9月28日付け30農畜機第3689号）

この要綱の改正は、平成30年9月28日から施行し、平成30年北海道胆振東部地震又は平成30年台風第21号による土砂流入、豪雨等の被害を証明する書面の交付を市町村から受けた者等を対象に適用するものとする。

附 則（平成30年10月9日付け30農畜機第3826号）

- 1 この要綱の改正は、平成30年10月9日から施行し、平成30年9月3日から適用するものとする。
- 2 平成30年9月28日付け30農畜機第3689号によるこの要綱の改正の適用期日は、1と同様とする。
- 3 この要綱の改正後の第2の事業のうち平成30年北海道胆振東部地震及び平成30年台風第21号による被害に係る事業について、平成30年9月3日から補助

金交付決定までの間に着工又は着手した場合にあっては、「畜産業振興事業の実施について」（平成15年10月1日付け15農畜機第48号-1）14の規定に基づく着工又は着手の手続については、同規定にかかわらず、別紙様式第1号の粗飼料確保緊急対策事業補助金交付申請書の備考欄の該当箇所に着工年月日又は着手年月日を記入することにより、行うものとする。この場合、事業実施主体又は事業実施主体から補助若しくは貸付を受けて事業を実施する者は、補助金交付決定までのあらゆる損失等について、自らの責任とすることを了知の上で行うものとする。

附 則（平成30年10月31日付け30農畜機第4300号）

- 1 この要綱の改正は、平成30年10月31日から施行し、平成30年台風第24号の被害対策については平成30年9月28日から、平成30年硫黄山噴火の被害対策については平成30年5月23日から適用するものとする。
- 2 この要綱の改正後の第2の事業のうち平成30年台風第24号による被害及び平成30年硫黄山噴火による被害に係る事業について、1の適用日から補助金交付決定までの間に着工又は着手した場合にあっては、「畜産業振興事業の実施について」（平成15年10月1日付け15農畜機第48号-1）14の規定に基づく着工又は着手の手続については、同規定にかかわらず、別紙様式第1号の粗飼料確保緊急対策事業補助金交付申請書の備考欄の該当箇所に着工年月日又は着手年月日を記入することにより、行うものとする。この場合、事業実施主体又は事業実施主体から補助若しくは貸付を受けて事業を実施する者は、補助金交付決定までのあらゆる損失等について、自らの責任とすることを了知の上で行うものとする。

別表

事業の種類	補助対象経費	補助率又は額
1 サイレージ品質低下防止等対策	<p>(1) 品質低下防止資材等の共同購入 サイレージの品質低下を抑制するための乳酸菌等の発酵促進資材等を共同購入し、畜産経営体に対し供給する取組に要する経費</p> <p>(2) 給与前のサイレージ等品質の確認</p> <p>ア 倒伏等の被害を受けたサイレージの品質の確認 (1) に取り組んだ生産者集団等が、品質低下防止資材を添加したサイレージについて、家畜への給与前に飼料分析をして品質確認を行う取組に要する経費</p> <p>イ 生育不良等の被害を受けた乾牧草等の品質の確認 平成30年梅雨前線豪雨等及び平成30年台風第24号により生育不良等の被害を受けた自給飼料を調製した乾牧草及びサイレージについて、家畜への給与前に飼料分析をして品質の確認を行う取組</p>	<p>1/2以内</p> <p>定額</p>
2 代替粗飼料の確保対策	<p>国産の粗飼料や輸入乾牧草等を共同購入し、畜産経営体に対し供給する取組に要する経費</p>	<p>定額</p> <p>ただし、粗飼料1キログラム当たり5円以内とする。</p>
3 粗飼料緊急確保の推進	<p>事業の円滑な推進を図るための会議の開催、現地調査、生産者集団等に対する指導等に要する経費</p>	<p>定額</p>

別紙様式第1号

平成 年度粗飼料確保緊急対策事業補助金交付申請書

番 号
年 月 日

独立行政法人農畜産業振興機構
理事長 殿

住所
団体名
代表者氏名 印

平成 年度において粗飼料確保緊急対策事業を下記のとおり実施したいので、粗飼料確保緊急対策事業実施要綱第6の1の規定に基づき、補助金 円を交付されたく、関係書類を添えて申請します。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

別添1「平成 年度粗飼料確保緊急対策事業実施計画」のとおり

3 事業に要する経費の配分及び負担区分

(単位：円)

区 分	事業費 ①=②+③	負 担 区 分		備 考
		機構補助金②	そ の 他 ③	
1 サイレージ品質低下防止等対策 (1) 品質低下防止資材等の共同購入 (2) 給与前のサイレージ等品質の確認 ア 倒伏等の被害を受けたサイレージの品質の確認 イ 生育不良等の被害を受けた乾牧草等の品質の確認				
2 代替粗飼料の確保対策				
3 粗飼料緊急確保の推進				
合計				

(注) 事業の一部を委託して実施する場合は、区分ごとに事業費の欄にその委託費の額を () 書きで記載するとともに、その委託先を備考の欄に記載すること。

4 事業実施期間

(1) 事業着手年月日 平成 年 月 日

(2) 事業完了予定年月日 平成 年 月 日

5 添付書類

(1) 定款

(2) 最近時点の業務報告書及び業務計画書

(3) 別紙様式第1号の別添2又は別添3の写し

(4) 別紙様式第1号の別添4及び別添5の写し(平成30年硫黄山噴火の被害対策の場合のみ)

別紙様式第1号の別添1

平成 年度粗飼料確保緊急対策事業実施計画

1 サイレージ品質低下防止等対策

(1) 品質低下防止資材等の共同購入

生産者 集団等	構成 員名	事業 費 (円)	負担区分		積算基礎								
			機構 補助 金 (円)	その他 (円)	品質低下防止資材等 商品名	購入 代金 (円) ①	購入 数量 (kg)	積算基礎 A		積算基礎 B			
								購入した発酵 促進資材等に より処理可能 な牧草の数量 (kg) ②	算出 根拠	被害 作物 名	被害面 積のう ち収穫 面積 (ha) ③	(被害 後) 単収 (kg/ha) ④	収穫量 (kg) ⑤=③× ④
					小計				-	-		-	
					小計				-	-		-	
合計					-	-	-	-	-	-	-	-	-

注1 事業費は、②≤⑤の場合は①の小計の額、②>⑤の場合は①の小計×⑤の小計/②の小計 により得た額とする。

注2 単収は、対象災害の発生年度においては農林水産省「作物統計」の公表値等を、対象災害の発生の翌年度においては被害後単収として収量調査の値を記入する。

注3 複数の対象災害により被害を受けた場合は、対象災害ごとの数量がわかるように記載すること。

(2) 給与前のサイレージ等品質の確認 (●●等の被害を受けた○○の品質の確認)

生産者 集団等	構成 員名	事業費 (円)	負担区分		積算根拠					備考	
			機構 補助金 (円)	その他 (円)	分析する飼料 を収穫した草 地等の所在地	飼料作物名	飼料分析に要 する経費(円)	(品質確認)			
								(色)	(匂い)		(総合評 価)
					小計						
					小計						
合計											

注1 分析する飼料を収穫した草地等の所在地及び飼料作物名は別紙様式第1号の別添2の別添「構成員の飼料作物に係る被害状況」のうち、被害を受けた草地等の所在地及び飼料作物被害状況あるいは収穫済飼料作物被害状況の飼料作物名から記載。

注2 「ア 倒伏等の被害を受けたサイレージの品質の確認」をもって飼料を分析する場合は、色、匂いによる総合評価をおこなうこととし、色については、良（明黄緑色～黄緑色）、中（黄緑色～黄褐色）、劣（黄褐色～褐色）、匂いについては、良（芳香～甘酸臭）、劣（酪酸臭～悪臭）、総合評価は良、中、不で判断する。

注3 品質の確認を行う場合は、「ア 倒伏等の被害を受けたサイレージの品質の確認」もしくは「イ 生育等の遅れの被害を受けた乾牧草等の品質の確認」とし、それぞれ別葉に記載。

(分析した飼料の内訳)

分析する飼料 を収穫した草 地等の所在地	草種	飼料分析				評価
		()	()	()	()	

- 注1 評価の欄には分析結果を踏まえて、全部給与 (○)、制限給与(△)、廃棄 (×) を記載する。
- 注2 評価結果は実績報告時に添付すること。
- 注3 飼料分析は、「ア 倒伏等の被害を受けたサイレージの品質の確認」の場合は、アフラトキシン・デオキシニバレノール等かび毒の項目を、「イ 生育等の遅れの被害を受けた乾牧草等の品質の確認」の場合は、TDN・NDF・ADF等栄養成分項目を記載すること。

2 代替粗飼料の確保対策

(1) -1 平成29年梅雨期豪雨又は平成29年台風第18号の被害による平成29年産及び平成30年産自給飼料の代替粗飼料の共同購入に係る補助対象数量の積算

生産者 集団等	構成員 名	補助対 象数量 (kg)	平成30年度代替粗飼料購入数量				飼料作物の被害数量													
			代替粗 飼料名	購入 数量 (現物) (kg) ①	TDN% (原物) ②	TDN 含有量 (kg) ③=①× ②/100	平成30年産飼料作物の収穫不能数量						平成29年産飼料作物の給与不能数量			平成29年 産 不足数量 (TDNkg) ⑬	平成29年 度 補助対象 数量 (TDN kg) ⑭	不足 数量計 (TDNkg) ⑮=⑨の 小計+⑫ の小計+ ⑬-⑭		
							被害 作物 名	被害面積 のうち 作付不能 面積又は 収穫面積 (ha) ④	単収		収穫不 能数量 (kg) ⑦=④ ×(⑤ -⑥)	TDN% (原物) ⑧	TDN 含有量 (kg) ⑨=⑦ ×⑧	給与不 能被害 作物名 (収穫 体系)	平成30年度 給与不能 数量 (kg) ⑩				TDN% (原物) ⑪	TDN 含有量 (kg) ⑫=⑩ ×⑪ /100
									平年値 (kg /ha) ⑤	被害後 (kg /ha) ⑥										
			小計	-		-		-	-		-		-		-					
			小計	-		-		-	-		-		-		-					
			小計	-		-		-	-		-		-		-					
			小計	-		-		-	-		-		-		-					
合計			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注1 ⑬は平成29年度実績報告書の別添1の2の(1)の⑰の不足数量(TDN kg)の小計と(2)の⑨不足数量(TDN kg)小計の合計とする。

2 ⑭は平成29年度実績報告書別添1の2の(1)の③の代替粗飼料のTDN含有量(kg)の小計又は⑰の不足数量(TDN kg)の小計のいずれか低い数量と(2)の③の代替粗飼料のTDN含量(kg)小計又は⑨の不足数量(TDN kg)の小計のいずれか低い数量の合計とする。ただし、平成29年度の実績がない構成員が平成30年度に代替粗飼料の供給を受ける場合は、⑭は0kgと記入する。

3 補助対象数量は、③≤⑮の場合①の数量、③>⑮の場合①の小計×⑮/③の小計により得た数量とする。

(1) -2 平成30年梅雨前線豪雨等、平成30年北海道胆振東部地震、平成30年台風第21号又は平成30年台風第24号の被害により不足する自給飼料の代替粗飼料の共同購入に係る補助対象数量の積算

(収穫不能数量・給与不能数量・契約国産粗飼料販売不能数量)

生産者 集団等	構成員 名	補助 対象 数量 (kg)	積算資料																			
			積算資料A				積算資料B															不足数 量 (TDN) (kg) ⑰= ⑨+⑫ -⑱
							a 収穫不能数量					b 給与不能数量					c 契約国産粗飼料販売不能数量					
			代替粗 飼料名	購入数量 (原物) (kg) ①	TDN% (原物) ②	TDN 含 有量 (kg) ③ =①× ②/100	被害作 物名 (収穫体 系)	被害面 積のう ち収穫 不能面 積(ha) ⑤	単収 (kg/ha) ⑥	収穫不 能数量 (kg) ⑦= ⑤×⑥	TDN% (原物) ⑧	TDN 含 有量 (kg) ⑨ =⑦× ⑧/100	被害作 物名 (収穫体 系)	給与不 能数量 (kg) ⑩	TDN% (原物) ⑪	TDN 含 有量 (kg) ⑫ =⑩× ⑪/100	被害作 物名 (収穫体 系)	契約栽 培数量 (kg) ⑬	販売数 量 (kg) ⑭	TDN% (原物) ⑮	TDN 含 有量 (kg) ⑯ =(⑬- ⑭)×⑮ /100	
			小計	-		-		-		-		-		-		-		-		-		
			小計	-		-		-		-		-		-		-		-		-		
			小計	-		-		-		-		-		-		-		-		-		
合計				-		-		-		-		-		-		-		-		-		

注1 補助対象数量は、③≤⑰の場合は①の小計により、③>⑰の場合は①の小計×⑰の小計/③の小計 により得た数量とする。

注2 複数の対象災害により被害を受けた場合は、対象災害ごとの数量がわかるように記載すること。

(1) - 3 平成30年梅雨前線豪雨等、平成30年北海道胆振東部地震、平成30年台風第21号又は台風第24号の被害により不足する契約国産粗飼料の代替粗飼料の共同購入に係る補助対象数量の積算

生産者 集団等	構成員 名	補助対象 数量 (kg)	積算基礎									
			積算基礎C				積算基礎D					
			代替粗飼料 名	購入数量 (原物) (kg) ①	TDN% (原物) ②	TDN含有量 (kg) ③=①×② /100	栽培契約 作物名	栽培契約 数量 (kg) ④	入荷数量 (kg) ⑤	うち給与不 能数量 (kg) ⑥	不足数量 (原物) (kg) ⑦=④-⑤ +⑥	TDN% (原物) ⑧
			小計		-		-	-	-	-	-	-
			小計		-		-	-	-	-	-	-
			小計		-		-	-	-	-	-	-
合計				-	-	-	-	-	-	-	-	-

注1 補助対象数量は、③≤⑨の場合は①の小計により、③>⑨の場合は①の小計×⑨の小計／③の小計 により得た数量とする。

注2 複数の対象災害により被害を受けた場合は、対象災害ごとの数量がわかるように記載すること。

(1) - 4 平成30年梅雨前線豪雨等又は平成30年台風第24号の被害により不足する自給飼料及び契約国産粗飼料の共同購入に係る補助対象数量の積算

(a) 給与制限数量

生産者 集団等	構成員 名	補助対象 数量(kg)	積算基礎																		
			積算基礎 E					積算基礎 F													
			代替 粗飼 料名	購入数 量 (原物) (kg) ①	TDN% (原物) ②	TDN 含有量 (kg) ③=① ×② /100	乾物率 (%) ④	繊維質 含有率 (乾物) (%) ④	自給飼料 (栽培契約) 作物名	生産数量 (kg)					TDN% (原物) ⑩	収穫TDN 含有量 (kg) ⑪=⑨× ⑩/100	乾物率 (%)	給与制限割合			給与制限 数量 (TDNkg) ⑮= ⑪×⑭
										収穫 単収 (kg /ha) ⑤	収穫 面積 (ha) ⑥	収穫 数量 (購入 数量) (kg) ⑦=⑤ ×⑥	販売 した 数量 (kg) ⑧	生産 数量 ⑨= ⑦-⑧				自給飼料(栽培契約粗 飼料)の繊維質含有率 (乾物) (%)	標準の 収穫時 ⑫	作業の 遅れ ⑬	
																			-	-	
																			-	-	
																			-	-	
			小計	-		-	※	-	-	-	-	-	-	-	-	※	※		-	-	
																			-	-	
																			-	-	
			小計	-		-	※	-	-	-	-	-	-	-	-	※	※		-	-	
																			-	-	
																			-	-	
			小計	-		-	※	-	-	-	-	-	-	-	-	※	※		-	-	
合計			-	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

注1 補助対象数量は、③≤⑮の場合は①の小計により、③>⑮の場合は①の小計×⑮の小計/③の小計により得た数量とする。

注2 ※については、購入数量(①)の乾物量(=数量×乾物率)あるいは生産数量(⑨)の乾物量(=数量×乾物率)のそれぞれの加重平均を記入する。

注3 平成30年梅雨前線豪雨等の被害が対象。

(b) 生産不足数量

生産者集団等	構成員名	補助対象数量(㉔)	積算基礎													
			積算基礎G				積算基礎H									
			代替粗飼料名	購入数量(原物)(kg) ①	TDN%(原物) ②	TDN含有量(kg) ③=①×②/100	被害作物名	被害面積のうち生産量が低下した自給飼料の収穫面積(ha) ④	平年			被害後			生産減少数量(TDNkg) ⑪= (⑥×⑦/100) - (⑨×⑩/100)	(a)の補助対象数量(TDNkg) ⑫ ※
								単収(kg/ha) ⑤	収穫量(kg) ⑥= ④×⑤	TDN%(原物) ⑦	単収(kg/ha) ⑧	収穫量(kg) ⑨= ④×⑧	TDN%(原物) ⑩			
			小計	-		-		-								
			小計	-		-		-								
			小計	-		-		-								
合計			-	-		-		-								

注1 補助対象数量は、③≤⑬の場合は①の小計により、③>⑬の場合は①の小計×⑬の小計/③の小計により得た数量とする。

注2 ⑫については、平成30年梅雨前線豪雨等により生育不良の被害を受けた牧草の場合は (a) ③もしくは (a) ⑬のいずれか小さい方を記入する。その他の場合は0を記入する。

(1) - 5 平成30年硫黄山噴火の影響により不足する自給飼料及び契約国産粗飼料の代替粗飼料の共同購入に係る補助対象数量の積算

生産者 集団等	構成員 名	補助対象 数量 (kg)	積算基礎															
			積算基礎 I				積算基礎 J											
			代替粗飼料購入数量				平成29年産自給飼料（契約国産粗飼料）等生産・確保数量						平成30年産自給飼料（契約国産粗飼料）等生産・確保数量					不足自給 飼料（契 約国産粗 飼料）数 量 (TDNkg) ⑭= ⑧-⑬
			代替粗 飼料名	購入数 量 (kg) ①	TDN% (原 物) ②	TDN 含 有量 (TDNkg) ③=① ×② /100	自給飼料 (栽培契 約作物) 名	生産面積 (ha) ④	単収 (kg/ha) ⑤	④×⑤ もしくは は入荷 数量 (kg) ⑥	TDN% (原物) ⑦	TDN 含有量 (TDNkg) ⑧= ⑥×⑦/100	自給飼料 (栽培契 約作物) 名	生産面積 (ha) ⑨	単収 (kg/ha) ⑩	⑨×⑩ もしくは は契約 数量 (kg) ⑪	TDN% (原 物) ⑫	
合計																		

注1 補助対象数量は、③≤⑭の場合は①の小計により、③>⑭の場合は①の小計×⑭の小計/③の小計により得られた数量とする。

注2 「平成29年産自給飼料（契約国産飼料）等生産面積（④）」は、硫黄山被害による水稲作付け自粛を行った区域のうち、平成29年度に自給飼料（もしくは契約国産粗飼料）を生産していた実績がある面積を記載する。

注3 水稲自粛区域外の水田において、平成29年に確保していた契約国産粗飼料が、平成30年において水稲の作付け自粛を踏まえ食用米に変更されたことにより、粗飼料が不足する場合には、「平成29年産自給飼料（契約国産粗飼料）等生産面積（④）」に、食用米に変更された水田において平成29年に確保していた契約国産粗飼料を作付けしていた面積を含めることができる。

注4 水稲自粛区域外の水田において、平成29年に確保していた契約国産粗飼料が、平成30年において水稲の作付け自粛を踏まえ食用米に変更されたことにより、副産物である稲わらを確保した場合には、「平成30年産自給飼料（もしくは契約国産粗飼料）生産面積（⑨）」にその稲わらを確保した水田の面積を含めることとする。

注5 「平成29年産自給飼料（もしくは契約国産粗飼料）等生産面積（④）」には、平成30年に追加的生産または契約による確保が予定されていたことが書面により確認できる面積を含めることができる。

(2) 事業費

生産者 集団	構成員 名	平成30年 度補助対象 数量 (kg)	事業費 (円)	負担区分		備考
				補助金 (円)	その他 (円)	
合計						

注1 補助対象数量は、(1)により積算した補助対象数量を記入。

2 購入単価が5円/kg未満の代替粗飼料を共同購入した場合、備考の欄に事業費の積算を記載すること。

3 粗飼料緊急確保の推進

(単位：円)

内容	事業費	負担区分		積算基礎	備考
		機構補助金	その他		
合計					

別紙様式第1号の別添2

飼料作物被害状況確認調書（平成 年産）

生産者集団等名 _____

1 市町村等確認者氏名等

機関名	役職	確認年月日	確認者氏名（自署）
		平成 年 月 日	

2 生産者集団等確認者氏名等

機関名	役職	確認年月日	確認者氏名（自署）
		平成 年 月 日	

3 構成員の被害状況

別添「構成員の飼料作物に係る被害状況」のとおり

構成員の飼料作物に係る被害状況

氏名 又は 法人、組織名	代表者氏名 (法人、組織のみ)	住所	被害概況	飼料作物被害状況						収穫済飼料作物被害状況				
				飼料作物名 (収穫体系)	被害を受けた 草地等の 所在地	作付面積	うち			被害状況	飼料作物名 (収穫体系)	被害数量	算出根拠	被害状況
							被害面積	収穫不能面積	収穫面積					
						ha	ha	ha	ha			kg		
										-	-	-	-	-
										-	-	-	-	-
										-	-	-	-	-
										-	-	-	-	-
										-	-	-	-	-
										-	-	-	-	-

別紙様式第1号の別添3

飼料作物被害状況確認調書（平成 年産）

生産者集団等名

1 市町村等確認者氏名等

機関名	役職	確認者氏名（自署）

2 生産者集団等確認者氏名等

機関名	役職	確認者氏名（自署）

3 構成員の被害状況

別添「構成員の飼料作物に係る被害状況」のとおり

（記載注意）本様式は対象災害発生の翌年産における被害状況の確認結果を記すこと。

構成員の飼料作物に係る被害状況

氏名 又は 法人、組織 名	代表者氏名 (法人、 組織のみ)	住所	飼料作物被害状況					収穫済飼料作物被害状況				被害状況確認年月日			
			飼料 作物名	被害を 受けた 草地等 の所在地	被害 面積	うち 作付 不能面積	うち 収穫面積	被害後 単収	被害状況	飼料作物名 (収穫体系)	平成30年度 被害数量	算出根拠	被害状況	市町村等 確認	生産者集団 等 確認
					ha	ha	ha	kg/ ha			kg				
			小計	-					-	-		-	-		
			小計	-					-	-		-	-		
			小計	-					-	-		-	-		
			小計	-					-	-		-	-		

注1 被害後単収は、収穫までに行った収穫量調査に基づき算定すること。

2 収穫済飼料作物（平成29年産）被害状況には、平成29年産収穫済飼料作物のうち平成30年度において給与不能となった自給飼料の被害の状況について記入すること。

別紙様式第1号の別添4

平成29年産飼料作物生産数量等確認調書

生産者集団等名 _____

1 市町村等確認者氏名等

機関名	役職	確認年月日	確認者氏名（自署）
		平成 年 月 日	

2 生産者集団等確認者氏名等

機関名	役職	確認年月日	確認者氏名（自署）
		平成 年 月 日	

3 契約耕種農家確認者氏名等

機関名	役職	確認年月日	確認者氏名（自署）
		平成 年 月 日	

4 構成員の飼料作物確保実績

別添「構成員の飼料作物に係る確保実績」のとおり

注 契約耕種農家が複数者に渡る場合は、自署欄を適宜増やして記入すること。

構成員の飼料作物に係る確保実績

氏名 又は 法人、組織名	代表者氏名 (法人、組織のみ)	住所	契約耕種農家		圃場住所	圃場面積 (ha)	平成29年産飼料作物		
			氏名 又は 法人、組織名	代表者氏名 (法人、組織のみ)			飼料作物名 (収穫体系)	確保数量 (kg)	算出根拠
							小計		-
							小計		-
							小計		-
							小計		-
							小計		-

注1 契約耕種農家氏名欄は、耕種農家との契約により購入していた場合に記載。

注2 飼料作物には稲わらを含む。

別紙様式第1号の別添5

平成30年産飼料作物作付数量等確認調書

生産者集団等名 _____

1 市町村等確認者氏名等

機関名	役職	確認年月日	確認者氏名（自署）
		平成 年 月 日	

2 生産者集団等確認者氏名等

機関名	役職	確認年月日	確認者氏名（自署）
		平成 年 月 日	

3 構成員の飼料作物確保実績

別添「構成員の水稻自粛区域における確保実績」のとおり

別紙様式第1号の別添5の別添

構成員の水稲自粛区域における確保実績

氏名 又は 法人、組織名	代表者氏名 (法人、組織のみ)	住所	飼料作物確保実績		
			飼料作物名	確保数量 (kg)	算出根拠
			小計		
			小計		
			小計		
			小計		

別紙様式第2号

平成 年度粗飼料確保緊急対策事業補助金交付変更承認申請書

番 号
年 月 日

独立行政法人農畜産業振興機構
理事長 殿

住 所
団体名
代表者氏名 印

平成 年 月 日付け 農畜機第 号で補助金交付決定通知のあった粗飼料確保緊急対策事業の実施について、下記のとおり変更したいので承認されたく、粗飼料確保緊急対策事業実施要綱別添1の第6の2の規定に基づき申請します。

記

- 1 変更の理由
- 2 事業の内容
別添1「平成 年度粗飼料確保緊急対策事業実施計画」のとおり
(別紙様式第1号の記の2に準ずる。)
- 3 事業に要する経費の配分及び負担区分

(注) 別紙様式第1号に準じ、変更部分が容易に対照できるよう二段書きにし、変更前を()書きで上段に記載すること。

平成 年度粗飼料確保緊急対策事業補助金概算払請求書

番 号
年 月 日

独立行政法人農畜産業振興機構
理事長 殿

住 所
団 体 名
代表者氏名 印

平成 年 月 日付け 農畜機第 号で補助金交付決定通知のあった粗飼料確保緊急対策事業について、下記のとおり金 円を概算払により交付されたく、粗飼料確保緊急対策事業実施要綱の第6の3の(2)の規定に基づき申請します。

記

1 概算払請求額

区 分	交付決定		事業費遂行状況 (平成 年 月 日現在)			既概算 払受領 額 ⑤	今回概 算 払請求 額 ⑥	平成 年 月 日迄 予定出来 高 (⑤+ ⑥) / ②	残額 ②-⑤- ⑥
	事業 費 ①	機構 補助金 ②	事業費 ③	機構 補助金	事業費 出来高 ③ / ① =④				
	円	円	円	円	%	円	円	%	円
合計									

(注) それぞれの事業項目ごとに記載することとし、請求時点での事業の実施状況が明らかとなる書類を添付すること。

2 振込先金融機関名等

金融機関名 ○○○銀行 ○○○支店
預金種類 ○○預金
口座番号
口座名義

独立行政法人農畜産業振興機構
理事長 殿

住 所
団 体 名
代表者氏名 印

平成 年 月 日付け 農畜機第 号で補助金交付決定通知のあった粗飼料確保緊急対策事業について、下記のとおり実施したので、粗飼料確保緊急対策事業実施要綱第6の4の規定に基づき、関係書類を添えてその実績を報告します。

なお、併せて精算額 円を支払われたく請求します。

記

1 事業の目的

2 事業の内容

別添1「平成 年度粗飼料確保緊急対策事業実施実績」のとおり
(別紙様式第1号の記の2に準ずる。)

3 事業に要した経費の配分及び負担区分

(単位：円)

区 分	事業費 ①=②+③	負 担 区 分		備考
		機構補助金 ②	そ の 他 ③	
1 サイレージ品質低下防止等対策 (1) 品質低下防止資材等の共同購入 (2) 給与前のサイレージ等品質の確認 ア 倒伏等の被害を受けたサイレージの品質の確認 イ 生育不良等の被害				

を受けた乾牧草等の品質の確認				
2 代替粗飼料の確保対策				
3 粗飼料緊急確保の推進				
合計				

(注) 1 実績額の上段に計画額を()書きし、計画と実績が比較できるようにすること。

2 事業の一部を委託して実施した場合は、区分ごとに事業費の欄にその委託費の額を〔 〕書きで記載するとともに、その委託先を備考の欄に記載すること。

4 事業に係る精算額

(単位：円)

交付決定額	確定額	概算払受領額	精算払請求額

5 事業実施期間

(1) 事業着手年月日 平成 年 月 日

(2) 事業完了年月日 平成 年 月 日

6 振込先金融機関名等

金融機関名 ○○○銀行 ○○○支店

預金種類 ○○預金

口座番号

口座名義

別紙様式第5号

平成 年度粗飼料確保緊急対策事業に係る仕入れに係る消費税等相当額報告書

番 号
年 月 日

独立行政法人農畜産業振興機構
理事長 殿

住 所
団 体 名
代表者氏名 印

平成 年 月 日付け 農畜機第 号で補助金の交付決定通知のあった平成 年度粗飼料確保緊急対策事業補助金について、粗飼料確保緊急対策事業実施要綱第7の3の規定に基づき、下記のとおり報告します。

(なお、併せて補助金に係る仕入れに係る消費税等相当額 円を返還します。(返還がある場合、記載すること))

- | | | |
|---|---|---|
| 1 補助金適正化法第15条の補助金の額の確定額 (平成 年 月 日付け 農畜機第 号による額の確定通知額) | 金 | 円 |
| 2 補助金の確定時に減額した仕入れに係る消費税等相当額 | 金 | 円 |
| 3 消費税及び地方消費税の申告により確定した仕入れに係る消費税等相当額 | 金 | 円 |
| 4 補助金返還相当額 (3 - 2) | 金 | 円 |

(注) : 記載内容の確認のため、以下の資料を添付すること。

なお、事業実施主体が法人格を有しない組合等の場合は、すべての構成員分を添付すること。

- ・消費税確定申告書の写し (税務署の收受印等のあるもの)
- ・付表2「課税売上割・控除対象仕入税額等の計算表」の写し
- ・3の金額の積算の内訳 (人件費に通勤手当を含む場合は、その内訳を確認できる資料も併せて提出すること)

- ・事業実施主体が消費税法第60条第4項に定める法人等である場合は、同項に規定する特定収入の割合を確認できる資料

5 当該補助金に係る仕入れに係る消費税等相当額が明らかにならない場合、その状況を記載

[]

(注) : 消費税及び地方消費税の確定申告が完了していない場合にあつては、申告予定時期も記載すること。

6 当該補助金に係る仕入れに係る消費税等相当額がない場合、その理由を記載

[]

(注) : 記載内容の確認のため、以下の資料を添付すること。

なお、事業実施主体が法人格を有しない組合等の場合は、すべての構成員分を添付すること。

- ・ 免税事業者の場合は、補助事業実施年度の前々年度に係る法人税（個人事業者の場合は所得税）確定申告書の写し（税務署の收受印等のあるもの）及び損益計算書等、売上高を確認できる資料
- ・ 簡易課税制度の適用を受ける事業者の場合は、補助事業実施年度における消費税確定申告書（簡易課税用）の写し（税務署の收受印等のあるもの）
- ・ 事業実施主体が消費税法第60条第4項に定める法人等である場合は、同項に規定する特定収入の割合を確認できる資料